

私は、世界と日本のしあわせのために必要なことは、異文化理解だと思う。

異文化理解が不十分だと、違う国同士で争いが起きたり、また国内でも争ってしまうことがある。争いが原因で、たくさんの人が亡くなってしまうことも多々ある。その代表的な例が戦争や紛争だ。

以前、私は「民族紛争」について学ぶ機会があり、そのテーマの中で「子ども兵」についても深く知ることとなった。戦争で犠牲になるのは大人だけではない。私の知った子ども兵は、いつものように親と暮らしていたところを、突然大人の兵士が来て連れて行かれ、兵士にされてしまうといった内容だった。卑劣なのが、ただ少年を連れて行ったのではなく、「母親の腕を切り落とせ。出来ないなら俺が殺す」と少年に命じたことだ。そして、少年を選んだのは自ら母親の腕を切り落とすことだった。なぜ同じ国内で、宗教や考え方の違いなどで争ってしまうのだろうか。多くの犠牲を払ってまで争わなければいけないのはなぜだろう。私が思うに、戦争や紛争をしたことで利益を得るのは権力者達だ。領土が欲しいとか、改宗させたいとか支配欲がそうさせているのだろう。そしてまた、先進国の私達もその戦争に関与しているといっても過言ではない。子どもたちの握っている銃は輸入されたものだと言われている。武器の売買をしている会社にとって、戦争は大きな利益を得るチャンスだ。また、自社の銃の威力を知る場でもある。平和のための銃、ピースメイカーという銃が使われていたことがあるようだが、平和のために必要なのは争いだろうか。たくさんの方々の関係の無い人々が亡くなるのが平和だろうか。銃や武器や地雷を売って人を殺す手伝いをして、それが平和に繋がるのだろうか。お互いの文化の違いを理解し、受け入れることで、亡くなるはずではない人の命が救われるのではないか。したがって日本やアメリカなどの先進国は、銃など武器の輸出を止めるべきではないか。そしてまた、まだまだ戦争や紛争の多い発展途上国もお互いを理解する努力をしなくてはならない。

日本もまた、他の国から理解されにくいような文化がある。その代表として、捕鯨問題がある。捕鯨は日本の文化だ。鯨のように知能の高い動物を食べるのは、おかしいという理由やかわいそうだという理由で世界の多くの国から非難されている。そして、反捕鯨で有名な団体、シーシェパードの反対運動の様子を映像で観たが、とてもひどい内容だった。反対運動と呼ぶには、あまりにも汚い言葉で漁師を罵倒しているので、あれでは何も解決が出来ないだろうと思った。反対運動というよりも妨害である。その運動は過激であり、漁船を沈没させたり、レーザー光線を使って妨害している。なぜ過激な行動を通してでないと、抗議ができないのか。人を傷つけることでしか、自己を主張出来ないのだろうか。

日本人は異文化理解がわりと得意だと思う。クリスマスを祝ったり、初詣へ行ったりなど、宗教面でも緩やかだ。また、食文化も様々な料理を和風に作り変えるなどしている。私は、こうした日本の良いところが世界にも広まれば良いと思う。他の国の文化や、国内でのちょっとした文化をお互いに理解することで、悲しむ人が減り、もっと世界はしあわせになるはずだ。世界と日本の幸せのために、私達がすべきことは、相手を理解することだ。違った考えを持った人を否定するのは簡単だが、理解しようと努力し、それを成し得たときに得られるものは多いはずだ。

世界と日本のしあわせのために、まずは周りの人を理解することから始めてみると良いだろう。